

山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会 ～平成26年度定期総会及び『スマート観光』に関するセミナーを開催～



相原会長の挨拶

中国総合通信局(局長:齊藤一雅)と「山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会(会長:相原玲二 広島大学教授、情報メディア教育研究センター長)は、平成26年4月21日広島市内で平成26年度定期総会を開催し、平成25年度の事業報告、決算報告、会計監査報告の承認に引き続き、同協議会が平成26年度から本格的に活動を開始するために必要となる設置要綱の改正のほか、同年度の事業計画と予算が承認されました。

なお、同協議会の自治体の会員は、当初、広島市、大田市、廿日市市、岩国市、島根県の5団体でしたが、さらに、出雲市、岡山市、松江市が入会し、8団体となっています。

同協議会は、外国人や高齢者に優しく若者を惹きつける最先端の観光情報インフラ(「スマート観光情報インフラ」)の整備に取り組む自治体を産学官の連携により応援することを目的としています。

平成26年度は、その目的を達成するため、広島市、大田市、岩国市等が取り組む観光コンテンツのリッチ化(動画充実、音声読み上げ、多言語化等)の支援を行うほか、「スマート観光情報インフラ」の技術、アイデア、事業化モデル等に関する実証実験・パイロット事業を実施します。これは、会員からの提案に基づき実施する事業で、観光地と連携して実証・PRを行いたい企業側とそうした取組を誘致したい自治体側のニーズのマッチングにより行うものです。

具体的には、5月末頃に広島市の平和記念公園(原爆ドーム周辺)でGoogle Glassを活用したAR観光アプリ(広島P2ウオーカー等)の実証デモンストレーションを実施します。これは、中国総合通信局が実験試験局として免許したGoogle Glassの実機を用いて行うものであり、国内で初めて実施される屋外公開デモになります。

また、6月中旬にAR・多言語対応の観光コンテンツがすでに整備されている出雲大社周辺と現在整備中の石見銀山周辺をめぐる「スマート観光体験バスツアー」の実施も計画しています。



脇谷会長代理の挨拶



顧問の齊藤局長の挨拶



広島市が事業計画を説明



大田市が事業計画を説明



定期総会の様子



基調講演 大藪多可志氏

定期総会の終了後、同協議会の主催により、『スマート観光』に関するセミナーが開催され、約70名の参加がありました。

セミナーでは、最初に「山陰・山陽スマート観光プロジェクト」の先行モデルである「能登半島スマート観光プロジェクト」の推進に携わってこられた学校法人国際ビジネス学院院長の大藪多可志氏から、基調講演として、「ICT利活用による観光支援と街づくり—石川県能登半島の事例—」と題して、同氏が中心となって推進してこられたICT利活用による様々な観光支援の取り組みについてご紹介いただき、「位置情報と観光の仕掛けを結びつけるなどG空間情報の活用を考えなければ観光の戦略はつくれない。ICTを使って日本人だけでなく外国人にとっても優しく魅力的な環境をつくる必要がある。」といったお話がありました。

その後、同協議会の会員から、『スマート観光』に関する技術、アイデア等に関する以下のプレゼンテーションが行われました。

- 島根県大田市: 石見銀山スマート観光計画
- ソフトバンクモバイル(株): ふらっと案内™「AR観光案内デモ」
- (株)常盤商会: 観光ナビゲータシステム
- (株)マツケイ: SkyWareアプリ

ソフトバンクモバイル(株)のプレゼンテーションでは、中国総合通信局が実験試験局として免許したGoogle Glassの実機を用いた実演(デモ)も行われ、参加者の注目を集めていました。

中国総合通信局では、今後も同協議会と連携して、「スマート観光情報インフラ」の整備と普及に向けて、様々な取り組みを進めてまいります。



プレゼンテーション(大田市)



プレゼンテーション(常盤商会)



プレゼンテーション(マツケイ)



プレゼンテーション(ソフトバンクモバイル)



会場内で実演(デモ)が行われた
Google Glass



Google Glass(装着時)